



研修交流会 in 桐生

第一部：活動事例見学・散策

桐生からくり人形芝居



なぜ桐生にからくり人形芝居があるのか。明治27年(1894年)に見世物興行のメッカであった江戸浅草奥山の竹田縫之助(竹田出雲の末裔)の活き人形からくり芝居が天満宮で興行されたのが初めてのようです。江戸の風情は明治の東京では無くなりつつあり、その名残を受け入れたのが桐生でした。本町各町等で昭和36年(1961年)まで6回の興行があり、保存会はオリジナル人形の保存と復元レプリカ人形による上演を行っています。

曾我兄弟夜討



人形の操作は自動です。最初に出てきた人形が、次の場面のスイッチを入れ、その後の一連の動きは2番目の人形が糸を引いて動かしています。一つの場面の中で多くの人形が動くのはすごいことで、当時の機織り関係職人等の技術の結集です。

助六由縁江戸櫻



レプリカ復元舞台は歌舞伎を模したもので綺麗で豪華です。操作は手で人形数だけの担当が両袖で糸を引いて操作しています。

